

「2023年度インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部1年 栗田 莉子

①私は今回の留学が初めての海外経験で、まず海外とはどういったものなのかを知る第一歩になったと思う。日本とは全く異なる文化や習慣に遭遇することも多く、驚いたり疑問に思ったりしたが、それを理解し受容することが国際人になる一歩なのだと、ある種の洗礼を受けた気分だった。

また、言語を学ぶことの楽しさも感じられた。言語を学ぶ楽しさというのはとても言葉にしがたく、単に知識が増えることの喜びだけでなく、ちっぽけな日本から海を越えて世界へと視点が広がるような気分がした。インドネシア語の学習を今回で終わらせずに今後も勉強したいと感じたし、インドネシア語を使う仕事に就くことにも興味が芽生えた。また、インドネシア語以外の言語の学習にも興味が芽生えた。

さらに、今回の経験から、インドネシア以外の国にも訪れてみたいと思った。日本ともインドネシアとも異なる文化や習慣を持つ国はまだたくさんあり、それらを知らずには国際的な舞台上で活躍できる人間にはなれないと思うからだ。時間のある学生のうちにできるだけ多くの国を、できれば旅行ではなく留学という形で訪れ、世界への見聞を深めたいという気持ちが強くなった。

②以前から強い興味を持っていたインドネシアでの生活を体験できたことで、世界に対する視点や考え方のようなものをアップデートできたような気がする。しかし、それは必ずしも楽しい、興味深いといったポジティブな気分になる体験だけではなかった。そのうちの一つを紹介したい。

私たちが毎日昼食をとった大学の食堂には、フルーツジュースの専門店があった。私はアボカドジュースがとても好きだったが、日本のアジア料理店を出てくるアボカドジュースと異なり、インドネシアのものはアボカド本来の味が強く、チョコレートソースが少し入っているものの、甘みは少なかった。そこで、学食を利用する最後の日、私はその店に行き、アボカドジュースを注文した後、翻訳ツールを使って「チョコレートソースを多めにに入れていただいてもいいですか？」と頼んだ。店員の男性は快く承諾してくれ、チョコレートソースを増量させた甘いアボカドジュースを作ってくれた。そして代金を支払い、お釣りを返された。サービスをしてくれたことに感謝したいと思った私は、そのお釣りを、“Tip.”と書いて彼に返した。渡したのは確か1000インドネシアルピア札、日本円にして10円にもならないわずかな額である。それでも、彼はとても嬉しそうな顔をして、お礼を言ってくれた。

その瞬間、私は、ひどく居心地の悪い感じを覚えた。自分が恵まれた人間であること、もっと強い言い方をすれば、貧しい人々に「与える側」の人間であることを強く認識し、そんな自分のいやらしさに強い嫌悪感を抱いた。これまで私は、先進国と発展途上国の格差問題に強い関心があって、それを解決したいという思いを確かに持っていた。それなのに、そんな自分が、その格差の加害者側に立っているように感じた。いや、断言してよいだろう。私たちは、未だなくならない世界の格差の加害者なのである。そのことを痛感させられた。

以上が、インドネシアで私がした苦い経験である。格差とは、莫大な富を持つ権力者とその下の貧しい一般人との間にだけあるものではなく、日本で平凡に生きる私たちも実はその階層の中にいるということを知った。社会問題を自分事としてとらえられるようになったこの経験を、今後の自分の生き方や目標に反映させていきたいと感じた。

③本プログラムでは、毎日インドネシア語の授業が開かれた。初めの頃は授業を受けてもちんぷんかんぷんで、先生の言葉をただ書きうつすだけで精一杯だったが、最終日にはそれなりに読み書きやリスニング、スピーキングができるようになった。わからないことを適切なインドネシア語で聞き返す能力もなく、とにかく困った顔をするしかなかった私に、何度も繰り返し説明をしてくださった先生方には、本当に感謝してもしきれない。また、語学授業以外にもさまざまな体験をさせていただいた。インドネシアの食文化について学んだ授業では、インド

ネシアの歴史的バックグラウンドが食文化にも反映されていることを知り、社会と文化は互いに密接に関わり合っていることが分かった。本プログラムでインドネシアに対する理解が深まり、インドネシアという国への興味がより強くなった。

④これまで、国際的な舞台で、格差をなくす仕事がしたいという漠然な夢を持っていた。しかし、前述したチップに関する経験を経て、格差問題に対して初めて明確な当事者意識を持ったことにより、格差是正に関わる仕事に対する熱意がさらに強くなった。今後はそういった仕事に関わるにはどうすればいいか情報収集をするほかに、海外で活躍するのに必要な言語スキルや異文化理解の姿勢を身につけるために経験を積んでいきたい。